

縁をつむぐ国際協力

特定非営利活動法人 JIPPO (十方)

巻頭言

JIPPO3周年に寄せて

～設立の根底にある仏教のこころ～

JIPPO副理事長 後藤壽邦

「三輪清浄の布施」のごとく

仏教の精神に基づいて西本願寺が母体となり設立されたJIPPOが今年11月、3周年を迎えた。この団体が将来に向けて育っていくか、正念場である。いま一度仏教の理念に立ち返り、存在意義を考えたい。

仏教の教えを一言で言うならば「欲を捨てよ」ということにある。すべてを捨てて初めて真理が見え、なんの打算も邪心もないダーナ(与える＝布施)という行為となって表れる。

仏教では「三輪清浄の布施」と言い、布施をする人、される人、布施そのもの、それら3つが清浄であって初めて布施が成り立つ。僧侶の托鉢を例にとればよくわかるが、する人もされる人も中味も全て清浄であって不浄のものであってはいけない。そして差し出された物は皆で分かち合う。私はここにJIPPOの活動の根源があると思っている。

日本には公共の乗り物に「優先席」という席が設けられている。おそらく日本特有のものではないか

と思うが、果たしてこれはよいことだろうか？ 席を譲ること譲られることは当然のごとく行われるべきことなのに、日本人はそのどちらも苦手のようだ。さらに「してあげたのにお礼もない」とか「してもらって申し訳ない」とかつい思ってしまう。見返りを期待したり施しを受けることを恥じたりせず、ごく自然なこととして喜捨の気持ちを持ちたいものである。

喜捨は自ら進んで差し出すと同時に相手が一番必要とするものでなければいけない。「ジャータカ物語」という仏教の説話集の中で、ウサギが飢えて瀕死の状態にあるトラに我が身を与えたという話が布施とは何かを教えている。しかし人は欲を捨てるどころか欲に欲を重ねていく。そういう人間の姿を悪とせず救いの目的であるとされたのが親鸞聖人である。

信頼されるNPOへ

JIPPOは十方衆生、人々が関わり合いながら分かち合う社会のために活動している。しかし、評価とは他者がするものであるから、



JIPPOも積極的に情報を公開し評価される団体にならないといけない。自分の行いは自分に返ってくることを肝に銘じ、前向きに肩ひじ張らず活動を続け、信頼されれば協力者も増えていくだろう。

広報が課題

3周年を迎え活動実績も確実に増えて、仕事は評価されていると実感している。しかし役員や会員がせっかくJIPPOに関わっても一過性で定着していないことが心配だ。人々がJIPPOに個人として関わりを持ってもらえるように、JIPPOも活動や成果をもっとアピールしていかないといけない。広報が今の課題である。(談)

南相馬の子どもたちと過ごした夏

3.11東日本大震災 被災地支援実施報告

この夏JIPPOは福島県を中心に被災地支援を展開しました。原発事故被災地の子どもたちの野外活動事業をはじめ、風評被害にあらがうべく物産販売にも取り組んでいます。現地からの手紙を交え報告します。

福島の物産を販売

3.11東日本大震災の支援活動としてJIPPOは、5月から西本願寺の親鸞聖人750回大遠忌法要に合わせた福島の物産販売を本格的に始めました。JIPPO会員や学生がボランティアで販売にあたり、開始当初は一日13万円を売り上げる日も。イベント販売の申し出も多く反響の大きさに驚く半面、買取販売のため売れ残らないよう仕入れる苦勞もありました。

夏休みの野外活動

せめて夏休みだけでも福島の子供たちを被災地の外で思いっきり遊ばせたい。JIPPOは7月25日から8月22日までの間、長野、京都、富山の3カ所に福島県南相馬市の小中学生と保護者のべ98人を招き、4泊5日の野外活

動を行いました。

長野コースは(財)京都市職員厚生会と(財)京都ユースサービス協会が運営を担ってくれました。子どもたちの宿泊に多摩市八ヶ岳少年自然の家を借り、地元の富士見町からも協力を得ました。京都での実施は本願寺山科別院や龍谷大学から宿泊施設を提供いただき、大学職員や学生が運営に協力してくれました。また富山コースは西本願寺から剣青少年研修センターの便宜供与を受け実施に至りました。



野外活動長野コースでの入笠山登山

一方現地での取りまとめは「南相馬こどものつばさ実行委員会」(代表:西道典氏/男山八幡宮宮司・南相馬PTA連絡協議会会長、後援:南相馬市PTA連絡協議会、南相馬市教育委員会)と連携し、調整してもらいました。

各コースは運営ボランティアのおかげでハイキングやレクリエーション、バーベキュー、施設見学など盛りだくさんなプログラムが用意されました。参加者は久しぶりに放射能の心配から解放され、のびのびとした時間を過ごすことができた様子。保護者からは「日に日に顔が明るくなっていくわが子を見ていて本当にうれしかった」という感想や、滞在先で築いた人と人とのつながりが被災地復興の大きな支えになるといった声も聞かれました。



富山での川遊び



「ご縁まちマルシェ」での福島物産販売



京都コースでは西本願寺を見学

今夏、そのほかの活動では7月に東北教区教務所の依頼を受けて岩手県花巻市に災害ボランティアセンター拠点を設置する協力をしました。また8月12日には福島県南相馬高校PTAへ本願寺築地

別院と東京教区教務所からエアコン38台が贈呈され、仲介したJIPPOも感謝状を受けました。

活動の資金面では「中央共同募金会」から287万円の助成を得たのをはじめ、「仏教NGOネットワーク」から50万円、「仏教伝道協会」から5万円の助成金を受け実施することが出来ました。直接届けられたり、京都地域創造基金を通して送られたりした寄付も25万円に上っています。これら活動資金を直接現地に生かし、JIPPOとして原発被災地との関係を深めながら、復興のための活動を続けていきます。



エアコンの設置された教室

「エアコン寄贈に 深い感謝」

**福島県立相馬高等学校
PTA担当教諭 武内義明**

福島県立相馬高校は、海岸線から西に約8キロ、事故のあった東電福島第一原発から北に約40キロの位置にあります。地震・津波によって校舎と生徒たちに大きな被害はなかったものの、警戒区域・計画的避難準備区域にある高校の生徒たちの仮教室(サテライト校)を受け入れることになりました。

5月から始まった3校での共同生活は、過密な学習環境を生徒たちに強いることになりました。さまざまな空間を臨時の教室と職員室とに分け合い、80名を超える生徒が入る教室も出現しました。特に7月以降は連日のように気温

35度を超える中での授業となりました。

このような困難の中、JIPPOを通じてエアコン38台の寄贈を頂きましたことは、生徒たちにとって大きな励みとなりました。さっそくPTAを中心に設置に係る工事費の援助を呼びかけ、PTA、同窓会をはじめ多くの方々が浄財を寄せて下さいました。その結果8月よりエアコンを稼働させることができ、JIPPOの御志を生かすことができました。エアコン設置後、学習環境の改善は生徒たちの大きな喜びとなり、特に3年生にとっては進路決定の時期に向けて何よりの励みとなっております。

JIPPOの御厚意に感謝するとともに、今後も教育活動を通じて地域復興に取り組んでいくことを御誓い申し上げ、ご報告といたします。

「寄稿」

**川俣町 竹屋菓子店
店主 穂積寿男**

この福島の地で、コツコツ手造り菓子を販売して125年の町では一番古い菓子店です。

JIPPOの皆さまには私でさえ修学旅行と団体旅行で二度しか訪れたことのない遠い京都より、福島市から30キロも離れた人口1万5000人ほどの小さな川俣町に二度も訪れ、当店を見学し実情を見

聞していただき本当にありがとうございます。その上1年間という長き期間当店の商品を販売し支援していただくということで心より御礼申し上げます。

当店は手造り飴を年間1000件程全国に発送してまいりましたが、川俣町の名前が全国に知られるようになり個人の発送が9割減になりました。しかし風評被害と戦いながら温かい心の人々の御支援に支えられ何とか頑張つて仕事に精を出しております。

当店は室内で心をこめて製造し、安心安全な製品ですので末長く、御支援くださいますようお願い申し上げます。



同じように風評被害で苦しんでいる隣の伊達市の玉鈴醤油(株)さんとコラボレーションしたしょうゆ飴3種

タイスタディツアー実施報告 体感！多文化共生の生活 —タイ北部の国境地帯を訪ねて—

2011年夏、JIPPOのスタディツアーはタイ最北端の地であるチェンライ県を訪れました。

タイ、ラオス、ミャンマーの3カ国が陸地で接するチェンライ県は、辺境ならではの独自の文化が息づいています。人々が国境を越えて交流しているだけでなく、山岳地帯に暮らす少数民族も巻き込んで、多文化共生社会が自然発生的にできあがっています。ツアーではそれまで抱いていたイメージが覆されるような体験がたくさんありました。



チェンライの寺院で

JIPPOがタイのスタディツアーを
行うのは一昨年度に続き2回目です。
参加者は学生6人を含む総勢13人。
龍谷大学講師の須羽新二さんが案内を務め、「一人ひとりがテーマを持つこと」を意識して
フィールドに出ました。

を出発し、バンコク経由で翌朝10時前にチェンライへ到着。さっそく仏教寺院などを見学しました。
地方の小都市で日本人観光客はあまり多くないと聞いていましたが、街には“セブン・イレブン・ジャパン”が何軒も進出しています。

屋台が所狭しと立ち並ぶナイトバザールの雰囲気は「これぞ東南アジアのイメージ」と楽しんでいました。また日本と勝手の違うトイレに戸惑うなど、カルチャーショックを覚えた初日でした。

★国境を越える

今回のツアーではタイに隣接する2つの国を往来しました。タイ・チェンコンからメコン川を隔てたラオスの町フェサイと、タイのメーサイ本場のタイからゲーを介して隣り合うミャンマーの町タキレクです。案内の須羽さんは「ほっとするフェサイ」に
対して「金に汚い印象のタキレク」と称しました。町の性格が両極端な雰囲気です。
国境に限らず観光地化されたり人が多く集まると、物乞いも多くなります。学生のひとは初めて子ども
の物乞いに遭遇し「目が合った時はなんともいえない気持ちになった。どうして子どもたちが悲し

今回のツアーではタイに隣接する2つの国を往来しました。タイ・チェンコンからメコン川を隔てたラオスの町フェサイと、タイのメーサイ本場のタイからゲーを介して隣り合うミャンマーの町タキレクです。案内の須羽さんは「ほっとするフェサイ」に
対して「金に汚い印象のタキレク」と称しました。町の性格が両極端な雰囲気です。
国境に限らず観光地化されたり人が多く集まると、物乞いも多くなります。学生のひとは初めて子ども
の物乞いに遭遇し「目が合った時はなんともいえない気持ちになった。どうして子どもたちが悲し

タイ スタディツアー旅程表

日にち	主な訪問地
8月23日	関西空港からタイ・チェンライへ
8月24日	タイ・チェンコンからメコン川を渡りラオス・フェサイへ。市場や寺院を見学。タイ・メーサイ泊
8月25日	メーサイからゲートを越えてミャンマー・タキレクへ。寺院や山岳民族の村を見学。メーサイ泊
8月26日	タイ・チェンセーン、ゴールドントライアングルの寺院・博物館を見学し、メコン川を渡りラオス・ドンサオを散策。タイ・パサーガム泊
8月27日	パサーガム滞在
8月28日	ドイトウン離宮見学、「暁の家」訪問。メーサイ泊
8月29日	ドイメーサロン、アカ族の村、ヤオ族の村見学
8月30日	帰国

い目をしなければいけないのか。何も分からない。友達が目の前の子にお金をあげただけで満足しても何にもならないと言っていた。すごく難しいと思った」と話しました。こうした疑問や戸惑いを重ね、国際協力につなげていくこともツアーのめざすところです。

★タイの仏教

タイは国民の94%が仏教徒です。日本ではなじみの薄い托鉢もタイでは日常の営みとして行われています。朝の市場でその様子を見ることができました。



托鉢する僧侶に供物をささげる

★農村での一日

サイ川でミャンマーと接するメーサイの農村で一日過ごし、ハレの日の郷土料理もご馳走になりました。村は見渡す限りの田園地帯です。川は人工的な堤防を施さず、雨季に増水すると水田は水没します。川を制するのではなく自然に合わせた土地利用を実感しました。また国境と生活圏については、親戚の行き来も多く、ミヤ



川があふれ水没した水田

ンマーの子どもたちがタイの学校に通学しているという話も聞きました。

★山岳少数民族の暮らし

参加者の多くが興味を持っていたのが山岳民族の暮らしでした。しかしその様子は想像とずいぶんかけ離れていました。

「通して思ったことは、結局自分達観光客が彼らの生活を壊しているのではないかということです」。多くの参加者がこう漏らしました。山を下りて町に観光施設としての移住村を造っている民族、観光客に付きまとうて手工芸品を売りつけようとする女性や子どもたち。実際の山岳民族は伝統の暮らしとお金や物が必要な暮らしとの狭間で翻弄されているように見えました。6日目、山岳少数民族の就学を支援する

学生寮「暁の家」を訪問しました。三重県出身の中野穂積さんが地域の人々と24年前に始めた事業で、中・高校生32名が寄宿しています。中野さんは生徒に話し合う機会を設け、民族としてのアイデンティティーを持つよう働きかけています。参加者からは「大変感銘



村でお祭りの料理をいただく

した」「独自の文化、伝統を守って発展することのむずかしさを思った」といった声が聞かれました。JIPPOの活動も当事者が誇りを持って自らの意志で開発するための支援をしていくべきだと認識を新たにしたツアーでした。



「暁の家」の寮生と記念写真

2010年パキスタン洪水 被災地支援
パキスタン北部山岳地帯の村に150mの防水壁が完成

昨年夏、パキスタン全土を襲った大洪水は建国以来最大と言われる水害となり、洪水による死者は1600人、被災者は1800万人以上に及びました。



作業は地元の住民が行った

JIPPOは2010年8月19日から9月30日まで災害救援金を募集し、258,002円が寄せられました。大きな援助が入りにくい草の根レベルの支援先を検討し、今回の洪水で甚大な被害箇所の一つである北部地域で人道援助や環境保護に取り組んでいるパキスタンのNPO「GRACE」と連携し、ヒマラヤカラコルム山脈の谷間にあるカルバツソー村への洪水防御壁建設に協力しました。

この村は北部の地方都市スカルドゥウ市から50キロ離れた渓谷にあり、約80世帯700人が暮らしています。豊かな自然と農業で暮らしを立ててきましたが未曾有の洪水



スカルドゥウ市

National geographic map

水により道路や橋、農地が流され、数十人が死亡しました。

GRACEと村民は石とワイヤーを使った伝統的な工法で、洪水が発生しやすい川の土手に沿って高さ1.2メートル、幅1.2メートルの防御壁を建設。JIPPOから3,179米ドル(258,002円)、GRACEの資金5,476米ドルの総事業費8,655

米ドルをかけ、住民が2カ月で約150メートルを完成させました。

村民は全長1830メートルの防御壁を作りたいと、支援の継続を働きかけています。



完成した防水壁



JIPPOの寄付を記した看板も



近くで見たとこ

第28回全国地域・寄せ場交流会2011京都 開催

全国で活動する野宿者支援団体が都道府県で毎年持ち回りで実施している「全国地域・寄せ場交流会」が9月24日、25日の2日間京都で行われました。

この会は野宿者支援団体や当事者が年に一度集まり、交流や情報交換、親睦を行うとともに問題意識の共有や協力関係の構築を図り、地域に戻って個々の活動に役立てていくことを目的に開かれています。

今年は京都市内で野宿者支援活動を行っている「きょうと夜回りの会」や大学研究者、学生、JIPPO等を中心に実行委員会を組織し、京都市の龍谷大学大宮

キャンパスを会場に開催。北海道から沖縄まで約200人が集まりました。全員が一堂に会して問題を共有する全体会では、東日本大震災の福島第一原発事故の処理に携わっている野宿者や日雇い労働者の現状について、元原発下請け労働組合「全日本運輸一般労働組合原子力発電所分会」分会長の斉藤征二さんから除染対策が徹底されていない現場の様子などが報告されました。

また、これまでタブー視されていた野宿者や支援者のジェンダー問題を初めて全体で取り組むべき課題として取り上げ、実行委員会も何気ない言動が差別に

つながることを意識するよう、具体例を交え訴えました。大会中はハラスメントに対して不快感を訴えることができるセーフスペースを設け、さらに大会そのものからも差別や偏見めいた言動をなくそうと働きかけました。

そのほか少人数で関心のあるテーマについて話し合う分科会では、「居宅支援」「襲撃」「弾圧」「就労」「空き缶条例」「法律」「アクション」「宗教」「被曝労働」「ジェンダー」「法的支援」といった会が設けられ、各々の事例や悩みを打ち明けながら活発な意見交換が行われました。

遠方からの当事者には実行委員会から旅費の補助を行い、JIPPOも昨年度のバザーの収益金の一部をこれに充てました。

野宿者支援所感

初めて野宿者支援に参加したのは、もう1年も前になる。その頃には、野宿者の方とごく普通に挨拶をし、世間話などをしていたので、初参加で彼らから受けた印象は「人の好い気さくなおっちゃんたち」であった。私にとっては最初からそんな関係だったので、それが普通なのかと思っていたのだが、当初から野宿者支援に参加していた人から話を聞くと、出会った頃は、今ほど友好的でなかった人も数人いたようだ。きっと彼らは突然現れた来訪者をいぶかしんだのだろう。

だが、継続する活動は相互理解を生んだ。毎月の野宿者支援で顔をあわせ、話をするうちに、

彼らはJIPPOを知り、JIPPOは彼らを理解するようになっていった。今では、彼らから近況を聞いたり、相談してくれたりするようになっていく。彼らも私たちが来てくれるのを楽しみにしてくれているようだ。

私が当たり前のように受け入れていた「普通の関係」は、JIPPOや龍谷大学ボランティア・NPO活動センターのスタッフが、私が参加するより、さらに1年前から継続してきた活動の上に生まれてきたものだった。

未だ、支援の在り方に悩む野

宿者支援だが、この「普通の関係」が続く先にJIPPOとしての支援の形を見つけたい。物やお金ではなく、押しつけでもない、「当たり前」の支援ができるようになればいいと思う。(JIPPOボランティアスタッフ 厚地 寛)



毎月の巡回

JIPPO インフォメーション

本願寺御正忌報恩講
JIPPO バザー実施のお知らせ

JIPPOでは、本年に引き続き、明年1月の本願寺御正忌報恩講に合わせ、バザーを実施します。
今回、バザーの収益金はJIPPOの事業の一つである「災害復興支援」のうち「タイ洪水被災地」など海外における災害復興支援のための活動資金とします。ぜひ皆様ご来場下さい。


開催日時:
2012年 1月13日(金) 12:00~17:00
14日(土)15日(日) 10:00~17:00
開催場所:ご縁まちマルシェ
(元植柳小学校特設テント)



バザー商品をご提供ください。
★商品は新品又は新品同様のものに限りさせていただきます
贈答品(生ものは除く)、食品(缶詰やレトルト等密封品)、食器類、タオル類、洗剤・石鹼類等、衣類
※恐れ入りますが送料はご負担ください。
受付締め切り：2012年1月11日(金)

贈り物にフェアトレード商品はいかがですか

JIPPOのフェアトレードコーヒー、紅茶をお歳暮等の贈り物にぜひお使いください。フェアトレードの収益金は、生産者の生活向上のための支援事業に充てています。



JIPPOフェアトレード商品一覧

カフェ・ティモール	ドリップ (8p)	粉(200g)	豆(200g)
ウバ紅茶	ティーバッグ(20p)	茶葉(100g)	

一般価格 900円、会員価格 700円
カフェ・ティモールは3p~5pのミニパックもあります。
各種詰め合わせ、のし掛け等ご相談ください。

~事務局だより~

JIPPOも満3歳の誕生日を迎えました。人間の子どもだと、ただただ守られていた赤ん坊がだんだん自分のことができるようになり、意思を主張し始めるころでしょうか。「自立とは、どれだけ周りに支えてくれる人がいるかである」。JIPPOも人を支え、支えられて大きくなっていきたいです。(た)

JIPPO会報第7号 (2011年11月5日発行)
発行: 特定非営利活動法人 JIPPO
〒600-8501 京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル
本願寺門前町本願寺内
TEL : 075-371-5210
FAX : 075-371-5240
e-mail : office@jippo.or.jp
URL: <http://jippo.or.jp>